

平成22年度第1回岐阜県図書館協議会議事録

- 1 開催日時 平成22年8月3日(火)午後1時28分～午後3時35分
- 2 開催場所 岐阜市宇佐4丁目2-1
岐阜県図書館 2階 特別会議室
- 3 会議日程
- 1 委員長・副委員長選出
 - 2 委員長挨拶
 - 3 議題
協議事項
(1) 岐阜県図書館「図書館評価」を受けた平成22年度以降の事業実施方針について
報告事項
(1) 平成21年度事業実績及び平成22年度事業について
(2) 東海・北陸図書館等とのネットワークについて
(3) 子どもの読書活動推進・学校支援について
(4) 県行政機関等との連携について
(5) 健康医療情報コーナーの設置について
(6) 1人1パスファインダーについて
(7) 雑誌スポンサー制度について
(8) 常設展示スペースについて

4 委員の現在数 10名

5 出席委員等の氏名及び数

出席者	
委員	浅野 寛子
委員	梶井 芳景
委員	金森 さちこ
委員	田中 敏雄
委員	田村 弘司
委員	土屋 康夫
委員	野村 務
委員	麓 英里
委員	薬袋 秀樹 9名
欠席者	
委員	小見山 章 1名

事務局出席者

田宮館長、荻山副館長、今井企画課長、藤澤サービス課長、
富田課長補佐、加藤主任 6名

教育委員会出席者

原社会教育文化課総括管理監 1名

傍聴者

7名

6 議事の経過及び結果

[午後1時28分、副館長の司会進行により、協議会の開会に先立ち、館長から挨拶を行った。]

(館長挨拶)

平成22年度は図書館協議会委員の改選期であり、今回新たに公募による委員の方をお願いした。

県図書館は、平成7年7月新館のオープンから、丸15年経過し、累積で約1千2百万人の方が来館されている。岐阜県においても、公共施設の在り方が問われている中で、行財政改革がすすめられており、「県立図書館としての在り方」さらに「公共施設としての運営の在り方」の抜本的な見直しを模索しているところである。

見直しのあり方については、毎年当協議会に諮問を得ており、昨年度は「岐阜県図書館改革方針」及び「岐阜県図書館改革アクションプラン」を策定し、順次行動に移している。

さらに、改革方針及びアクションプランの担保として、自己評価制度の導入と岐阜県図書館協議会へ外部評価を依頼することとし、平成21年度実施結果については、昨年度の岐阜県図書館協議会委員に外部評価をお願いし、意見を賜ったところである。

そのご意見を踏まえて、今回、平成22年度及びそれ以降のアクションプラン案を提案させていただいた。ご審議をお願いしたい。

県の情勢は、知事の発言にもあるように「臥薪嘗胆」の状況にあり、当館も予算・職員の削減の中で「金がなければ知恵を絞れ」という心構えにて、利用者サービスの向上に向けて、職員が自発的立場にてアイデアを出し、全力で取り組んでまいりたい。

[各委員の自己紹介後、事務局から本日の出席者について、委員数10名のうち、出席委員9名で条例に定める定足数に達している旨報告した。]

[協議会には、委員長及び副委員長各1名を置き、委員長が当協議会の議長になるため、委員長が選出されるまで、田村委員が仮議長に選出され、職務を行った。その後、委員の互選により、田村委員が委員長に、葉袋委員が副委員長に選出された。]

[委員長は就任挨拶の後、7名の傍聴を承認し、入室の許可をした。]

[委員長は、議題の協議事項である「岐阜県図書館「図書館評価」を受けた平成22年度の事業実施方針について」事務局の説明を求めた。]

(事務局)

[事務局から「岐阜県図書館「図書館評価」を受けた平成22年度の事業実施方針について」説明]

平成21～25年度までの事業実施の改革方針を策定した。

目標数値等については、限られた時間の中ではあるが、毎年県民のニーズに合わせながら、見直していきたい。

アクションプランについても、図書館協議会にて外部評価を頂きながら、リニューアルを図っていきたい。

今回、図書館評価を受けた改革方針のなかで、県立図書館の果たすべき役割として本来の役割に軸足を戻すこととし、具体的方策として

「広域性の発揮」に向けた具体的方策

・直接来館者への貸出サービス偏重から「全県域への図書館サービス向上」へ

「専門性の発揮」に向けた具体的方策

・成果指標は、「貸出冊数」からレファレンス件数へ

・図書の選書・収集は、「リクエスト的収集」から「自律的な収集」へ

「経営の視点」からの業務、組織及び施設活用の徹底した合理化

の3点の方針を具体的に記載した。

各分野に数値目標を設定したが、未熟な目標になっている。

よろしくご審議願いたい。

[引き続き、担当者から、平成21年度岐阜県図書館「図書館評価」報告、評価シート、来館者アンケート等、詳細について説明した。]

(委員長)

[「広域性」についての質疑に入ることを宣し、質問、意見を求めた。]

(委員)

岐阜と東海北陸地区との相互貸借業務は、メリット及びデメリットがどの程度あるのか。

(事務局)

理想的には東海北陸6県の市町村図書館を含めて、ネットワークが形成され、蔵書数は4千6百万冊の書籍があり、県民に対しては、無料で貸し出しが受けられる権利がある。

また、デメリットとしては、需要が増えれば、図書館職員の事務量が増えるということがある。

(委員)

市町村図書館から他県の図書館等への直接貸出ができるのか。

(事務局)

貸出等のオーダーは直接図書館同士で実施いただき、物流は各県図書館を通じて、発送手続きができる。

また、市町村図書館から県図書館に対して、依頼があれば、貸出が受けられる。

(委員)

相互貸借等については、利用者には大変わかり難い。ホームページ(インターネット利用)等で掲載されているかもしれないが活用されていない利用者も多くあるのではないか。

図書館の掲示形態を見ても、大変わかりづらい傾向にあり、大きなパンフレットがあると大変便利である。

広報の方法(効果的・ホームページ・チラシの配布)も含め、あまり広報が有効になされていないのではないか。

(事務局)

広報活動が県民の方々に、行き届いていないので、今後課題として、見直しを図っていきたい。

(委員)

公共図書館の立場としての、相互貸借に対する現場の意識付けを検討すべきである。

公共図書館協議会のポスターを館内に掲示していたが、利用者の申し出に対して一部の図書館は、他図書館からの借用等を拒絶していた時期があった。

今後、この姿勢を改めるべきと考えている。

市町村図書館として、愛知県立図書館から書籍を借りた実績がないので、今後は市町村図書館がどう活用すべきかと検討していきたい。

(委員長)

[「専門性」についての質疑に入ることを宣し、質問、意見を求めた。]

(委員)

専門性については、職員の経験が重要であり、正職員(経験年齢)の比率が下がっていることから、外部の人間として、懸念している。

(事務局)

厳しい財政状況もあり、今年度は正職員27名、非常勤職員19名の46名体制で、職務分担・雇用形態を考慮して、正職員には、特にレファレンスや、利用者の最初の窓口対応である総合案内を担わせ、非常勤職員には、カウンター(AVコーナー含む)の窓口業務を担わせ、ローテーション制を導入し、専門性や経験を生かせるように配置している。

(委員)

文科・理科系等の目的に応じて、3つの部門に分けて、資料収集から利用者への提供をして、職員の専門性を育てるという部分を、死守して頂きたい。

また、他県の図書館において、指定管理者制度の導入に伴って、レファレンス依頼が市町村図書館へ流れたとの話がある。

専門性の低下を招かないようにお願いしたい。

(委員)

パスファインダーが利用者からどこにあるのか分かりづらいため、目立つようにして欲しい。

(事務局)

パスファインダーは1階開架室の自動貸出機の隣にあるが、よりわかりやすくなるよう、今後工夫して行きたい。

(委員長)

横文字では利用者に対して判りにくいため、より配慮をして欲しい。

(事務局)

現場では、横文字を避けるため、「レファレンス」を「お尋ねコーナー」として、利用者に気軽に手に取って頂けるように、PRの向上を図ると共に、配置・数及び質を高めたい。
また、現在、利用状況の統計を取っており、今後、数値目標に活用していきたい。

(委員)

パスファインダーを職員がより使いこなしたかが有効であり、今後の職員の専門性を向上させて行くと思われる。

(委員)

評価指標について、アウトプット指標で設定されており、大学においてなされている、質の評価・アウトカムでの評価指標が導入されていないのではないか。
図書館として、こういった評価指標を導入する予定はあるか。

(事務局)

質の評価であるアウトカム指標の導入については、非常に難しい面もあるが、他の図書館を参考に、今後検討していきたい。

(委員)

県図書館の方向性は、中核図書館として位置づけられており、また、今年は「国民読書年」として国で位置付けられ、情報番組を見てますと、国立国会図書館は、膨大な資料をただ単に収集し、保管されているとも聞いている。
岐阜県図書館としては、今後、岐阜市立図書館建設の話があるが、今度同様な機能の分担を3つ視点から、どうお考えかを教示願いたい。

(事務局)

この上下は無いかもしれないが、市町村・県・国会図書館とあるが、国会図書館は全部の資料を国レベルの考え方で、収集されているものと考えている。
また、県立図書館は、県内の郷土資料の充実を図り、県内資料の保存の最終責任機関としての役割を担っているものと考えている。岐阜県図書館においては、地図関係資料、児童図書関係などの特色のある図書資料や、ランク的には分からないが、目の不自由な人に対するサービスについては、県立図書館として充実していると考えており、司書の誇りとしている。

(委員長)

3つ視点について、議論頂きましたが、全体を通じての、ご意見及びご質問はないか。

(委員)

新図書館建設を考えると、図書館像として、中核図書館として、多くの利用者が訪れる、活気が溢れ、沢山の資料が沢山の利用者に利用されている図書館をめざし、開架冊数20万冊に対して、多くの支持者が訪れる図書館となったことは理解できるが、今後県図書館のあり方として、平成25年度の目標指標に、来館者数を掲げる必要性があるのかは疑問である。

(事務局)

貸出冊数と連動して、来館者数を外すことができなかった。
来館者数に拘ったわけではないので、目標数値から外すことも検討したい。

(委員)

私も来館者数を目標数字から外すことには賛成で、広域性で市町村図書館が充実されれば、来館者数に拘る必要はないと思う。

(委員長)

岐阜市立図書館はいつ建設されるのか。

(事務局)

情報としては、平成25年度と聞いている。

(委員長)

現在の県図書館の機能としては、統計的な利用者数を見ても、市立図書館的な部分も担っているのではないか。

(委員)

県立図書館において、来館者を増やすことを重点を置き、広域性が疎かになることは適切ではない。

岐阜県図書館においては、広域性の発揮を大きく掲げ、市町村図書館・学校図書館に対する支援を掲げていることは大変有難い。

岐阜県図書館は、立地も良く、施設も新しいため、来館者数の目標を大きく掲げる必要性はないと思う。

また、広域性の発揮・専門性発揮の観点から、広く深く絡めて、市町村・学校・行政機関等の連携を広く進めて頂きたい。

(委員)

会議の前に図書館を見させて頂いたが、広報活動において、当館の広報物が目立っていないので、もっと目立つようしたほうがよいと思う。

(委員)

世界分布図センターは現在閉鎖されているが、個人的には多く利用した。
今後どのような形で、活用できるのか。

(事務局)

旧世界分布図センターは、行財政改革の一貫として閉鎖した。

しかし、機能を閉鎖したのではなく、15万点の蓄積した貴重な資料があり、全国地形図(2万五千分の1及び5万分の1縮尺)、旧ソビエト連邦時代の地図があり、映画の「沈まぬ太陽」の中で、「カラチ」及び「ナイロビ」の地図が活用されたこともある。

県外及び海外の利用者から、当館の収集量及び収集内容について評価が高く、今後は県民がより活用できるように地図情報のギャラリーをアンテナショップに活用するなど有効利活用に努めていきたい。

(委員)

個人的には、戦争体験を書くにあたって活用できるものと思う。
利用が高まっていくのではないか。

(委員長)

[質疑、意見等他にないことを確認し、報告事項について協議に入ることとし、事務局から説明を求めた。]

(事務局)

[事務局から報告事項(1)～(8)までの要点を説明した。]

(委員)

図書資料費の50%削減は、図書館の根幹の大変な問題である。何とか、予算の確保の努力をして欲しい。

雑誌スポンサーの確保について、来年度の見通し及び取組はどうなっているのか。

他の自治体では、関係機関からホームページの掲載による広告料徴収している例や、図書館では買えない書籍を市民に寄附を募っているところもある。

図書資料費の削減が何年か継続的に続くと、図書館としてのサービスの低下に繋がる。

ある報道機関の情報として、負のスパイラルのため、利用者が減る恐れもあるので、この問題については、真剣に取り組んでほしい。

(事務局)

図書資料費予算額については、平成21年度58,000千円から平成22年度29,000千円へ削減しており、全国の県立図書館ランキングでは上位10~20位のランクから全国レベルで下位から何番という位置にまで下がっている。

知事もマスコミとの交流の接点の中で、この現状は認識されており、図書館が非常事態であることも認識されている。

今年度は3ヶ年の行財政改革の初年度であり、これ以上予算が減額されることはないと考えている。

図書資料費の予算額については、知事の関心も高く、これが続くのではなく、今後回復する方向であると認識している。

自助努力的な部分については、委員より貴重な提案を頂いた。今後も努力していきたい。

(委員)

予算が削減されて、子供達にとっても、悪影響を及ぼすことを感じる、危機的な状況にあるのではないかと。

国体が終了すれば、児童活動にも予算が配分されるのか。

子育て支援・子ども読書活動等のNPO団体及び子育て支援団体が、補助制度を上手く活用している例もあり、岐阜県では、まだ活用されていない制度もあると思われることから、情報を入手し、財源を確保する方法を検討したほうがよい。

(委員長)

厳しい財政状況ではあるが、図書館・学校も工夫しながら乗り切って欲しい。

[本日の協議事項の審議がすべて終了したことを確認し午後3時35分に閉会宣言した。]